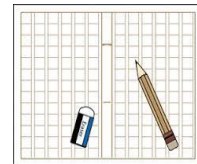




# どくしょかんそうぶん か 読書感想文を書こう！



読書感想文とは、本を読んで、自分が感じたこと、考えたことを伝える文章です。  
書くことによって、自分の考えが深まります。

## ① 本を選ぼう！

・自分のお気に入りの本

(何度も読み返している本や、強く心に残っている本)

・登場人物が、自分と身近に感じられる本

(同じ年くらい。好きなことやスポーツが同じ。似た体験がある)

・ノンフィクション(実際にあった話)

(疑問に思っていることや、知りたいことが書いてある本)



## ② 本を読もう！

・1回目は楽しみながら読もう！

・2回目は心が動いたところにふせんを貼ったり、メモをとりながら読もう。

(「感動した」「共感した」などはもちろん、「すごい!」「知らなかった!」  
「ハラハラした」「わたしだったらこうする/こうしない」など)



## ③ 書いてみよう！

物語のあらすじにそって順番に書くのではなく、感想文の中心になることを

1つか2つ決めてから書いてみましょう。

〈たとえば〉

・一番心に残った場面やことから(なぜ自分の心が動いたのか)

・登場人物の生き方や考え、行動について、自分と比べてどうなのか

・本を読む前の自分と、読んだあとの自分の気持ちの変化 など

## 〈組み立て方〉

中心にすることが決まったら、感想文を組み立てましょう。感想文を「はじめ」

「なか」「おわり」の3つで組み立てるのも、ひとつの方法です。感想文の中心に  
することを「なか」にもってきます。中心が2つある場合は、「なか1」「なか2」  
というように、「なか」が2つになります。

## 「はじめ」

〈たとえば〉

- ・ 本<sup>ほん</sup>を<sup>よ</sup>読んだ<sup>き</sup>きかけ
- ・ 本<sup>ほん</sup>を<sup>よ</sup>読む<sup>まえ</sup>前に<sup>だいめい</sup>題名<sup>み</sup>を見て<sup>おも</sup>思ったこと
- ・ 本<sup>ほん</sup>を<sup>よ</sup>読む<sup>まえ</sup>前の<sup>じぶん</sup>自分の<sup>きもち</sup>気持ち<sup>せいかつ</sup>や生活 など

## 「なか」

〈たとえば〉

- ・ 一<sup>いち</sup>番<sup>ばん</sup>心<sup>こころ</sup>に残<sup>のこ</sup>った場面<sup>ばめん</sup>やこと<sup>こと</sup>がら。なぜ、心<sup>こころ</sup>に残<sup>のこ</sup>ったのか<sup>せつめい</sup>を説明。
- ・ 登<sup>とう</sup>場<sup>じょう</sup>人物<sup>じんぶつ</sup>の生<sup>い</sup>き方<sup>かた</sup>や考<sup>かんが</sup>え方<sup>かた</sup>、行<sup>こう</sup>動<sup>どう</sup>のなかで、好<sup>す</sup>きなところ<sup>ところ</sup>や、自<sup>じ</sup>分<sup>ぶん</sup>とに<sup>い</sup>てい<sup>る</sup>ところ、ちが<sup>ちが</sup>っているところ<sup>ところ</sup>を考<sup>かんが</sup>えて書<sup>か</sup>く。
- ・ ノンフィクション<sup>ノンフィクション</sup>の場<sup>ばい</sup>合<sup>あ</sup>は、新<sup>あた</sup>しく知<sup>し</sup>ったこと<sup>こと</sup>や、本<sup>ほん</sup>を<sup>よ</sup>読む<sup>まえ</sup>前に<sup>おも</sup>思<sup>おも</sup>っていたこととちが<sup>ちが</sup>っていた内<sup>ない</sup>容<sup>よう</sup>を書<sup>か</sup>く。
- ・ 実<sup>じっ</sup>際<sup>さい</sup>に自<sup>じ</sup>分<sup>ぶん</sup>で体<sup>たい</sup>験<sup>けん</sup>して<sup>か</sup>み<sup>かん</sup>た感想<sup>そう</sup>を書<sup>か</sup>く。 など

たいせつ！

読<sup>どく</sup>書<sup>しょ</sup>感<sup>かん</sup>想<sup>そう</sup>文<sup>ぶん</sup>で一<sup>いち</sup>番<sup>ばん</sup>大<sup>だい</sup>切<sup>せつ</sup>な<sup>な</sup>のは、  
そ<sup>その</sup>の<sup>ほん</sup>本<sup>よ</sup>を<sup>よ</sup>読<sup>よ</sup>んで<sup>じぶん</sup>自<sup>かんが</sup>分<sup>かんが</sup>（の考<sup>かんが</sup>え）  
が<sup>か</sup>ど<sup>ど</sup>う<sup>う</sup>変<sup>へ</sup>わ<sup>わ</sup>った<sup>か</sup>か、で<sup>で</sup>す

## 「おわり」

- ・ 本<sup>ほん</sup>を<sup>よ</sup>読む<sup>まえ</sup>前<sup>あと</sup>と後<sup>あと</sup>で、自<sup>じ</sup>分<sup>ぶん</sup>の考<sup>かんが</sup>え方<sup>かた</sup>が、ど<sup>ど</sup>の<sup>か</sup>よ<sup>う</sup>に<sup>に</sup>変<sup>へ</sup>わ<sup>わ</sup>った<sup>か</sup>か。
- ・ 本<sup>ほん</sup>か<sup>か</sup>ら学<sup>まな</sup>んだ<sup>こと</sup>を、自<sup>じ</sup>分<sup>ぶん</sup>の生<sup>せいかつ</sup>活<sup>い</sup>活<sup>い</sup>しいに、ど<sup>ど</sup>の<sup>い</sup>よ<sup>う</sup>に<sup>に</sup>活<sup>い</sup>か<sup>か</sup>して<sup>い</sup>く<sup>か</sup>。 など

### かんそうぶん ④感想文のタイトルをつけよう！

かんそうぶん  
感想文のタイトルは、自<sup>じ</sup>分<sup>ぶん</sup>が一<sup>いち</sup>番<sup>ばん</sup>伝<sup>でん</sup>えたい<sup>こと</sup>から<sup>よ</sup>つ<sup>け</sup>ると良<sup>よ</sup>い<sup>で</sup>す。

- ・ 感<sup>かん</sup>動<sup>どう</sup>した<sup>こと</sup>や、テ<sup>て</sup>マ<sup>ま</sup>を<sup>よ</sup>タ<sup>たい</sup>ト<sup>と</sup>ル<sup>る</sup>にする
  - ・ 心<sup>こころ</sup>に<sup>のこ</sup>残<sup>こと</sup>った<sup>こと</sup>言<sup>こと</sup>葉<sup>は</sup>やセ<sup>だい</sup>リ<sup>めい</sup>フ<sup>い</sup>を<sup>だい</sup>め<sup>い</sup>に<sup>い</sup>する
  - ・ 「なぜ〜」「どうして〜」と疑<sup>ぎ</sup>問<sup>もん</sup>を<sup>ぎ</sup>タ<sup>たい</sup>ト<sup>と</sup>ル<sup>る</sup>に<sup>い</sup>して<sup>い</sup>も<sup>も</sup>お<sup>お</sup>も<sup>も</sup>し<sup>し</sup>ろ<sup>ろ</sup>い。
- ほん よ まな みじか ことば ないよう さいご き  
本<sup>ほん</sup>を<sup>よ</sup>読<sup>よ</sup>んで<sup>まな</sup>学<sup>まな</sup>んだ<sup>こと</sup>を<sup>みじか</sup>短<sup>こと</sup>い<sup>こと</sup>言<sup>こと</sup>葉<sup>は</sup>に<sup>い</sup>して<sup>い</sup>タ<sup>たい</sup>ト<sup>と</sup>ル<sup>る</sup>に<sup>い</sup>ま<sup>し</sup>よ<sup>う</sup>。内<sup>ない</sup>容<sup>よう</sup>に<sup>あ</sup>わ<sup>わ</sup>せて、最<sup>さい</sup>後<sup>ご</sup>に<sup>き</sup>決<sup>き</sup>め<sup>め</sup>よ<sup>う</sup>。



## 【令和7年度 読書感想文課題図書】

### 【低学年の部】

『ライオンのくにのネズミ』

さかとく み雪（中央公論新社）

『ぼくのねこポー』

岩瀬成子（PHP 研究所）

『ともだち』

リンダ・サラ（ひさかたチャイルド）

『ワレワレはアマガエル』

松橋利光（アリス館）

### 【中学年の部】

『ふみきりペンギン』

おくはらゆめ（あかね書房）

『バラクラバ・ボーイ』

ジェニー・ロブソン（文研出版）

『たった2℃で…地球の気温上昇が  
もたらす環境災害』

キム・ファン（童心社）

『ねえねえ、なに見てる？』

ビクター・ベルモント（河出書房新社）

### 【高学年の部】

『ぼくの色、見つけた!』

志津栄子（講談社）

『森に帰らなかったカラス』

ジーン・ウィリス（徳間書店）

『マナティーがいた夏』

エヴァン・グリフィス（ほるぷ出版）

『とびたて! みんなのドラゴン  
難病ALSの先生と日明小合唱部  
の冒険』 オザワ部長（岩崎書店）